

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671200117
法人名	ヤマト株式会社
事業所名	グループホーム ニングルの森 平尾
所在地	〒611-0003 京都府宇治市平尾台1丁目3-8 (電話) 0774-33-1882

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅湊町83-1 ひと・まち交流館 京都		
訪問調査日	平成19年12月17日	評価確定日	平成20年8月1日

## 【情報提供票より】(平成19年12月11日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 4 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 5.06 人	

### (2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 15万 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / ○無
食材料費	朝食	200 円	昼食 700 円
	夕食	700 円	おやつ 100 円
	または1日1700円		

### (4)利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	0 名	9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.7 歳	最低 76 歳	最高 87 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	六地藏総合病院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都府宇治市の、近くに高校や保育園があるような、環境抜群の住宅街にあり、個人の邸宅を改造して使用しているため、利用者へのダメージは非常に少ないと思われる。あたりは静かで散歩には困らない環境である。敷地内には庭があり、池や立ち木、花が植えられている。ホーム内はバリアフリーであり、居室もそれぞれ個性がある。施設長や管理者はじめ、有資格の職員が多く、開設7年を過ぎ、認知症ケアの力量が蓄積されてきている。家族にたいしても認知症理解の視点から対応しており、利用者との関係修復が図れているケースもある。毎月ケアマネジャーが書いて、家族に郵送される『近況報告』は秀逸である。利用者の情報収集にも力を入れており、それを反映した介護計画を目指している。とくに外出については、日常的な外出の他に個別外出にも取り組んでおり、利用者には喜ばれている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の評価において指摘された点として、深いアセスメントの実施が求められていたもので情報収集を積極的におこなっている。理念をホーム内に掲示すること、居室にあった画一的な表札を改善することなどにも改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価に関して会議において話し合い、自己評価は全職員の意見をまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	要綱は作成されていないものの、利用者家族、町内会、共同作業所職員、保育所職員、宇治市健康生きがい課職員等がメンバーとなり、開催されており、議事録も残されている。今後はメンバーにたいしてグループホームや認知症にたいする理解をさらに求めるとともに、ホームとしては地域のニーズを把握していく予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会があり、ふだんの面会も多く、行事には参加も多い。家族が来訪した時には情報交換して家族から意見を聞くようにしている。苦情や意見は記録され、対応は迅速におこなわれている。今後は家族にもホームの運営に協力してもらえるような体制になることが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には加入しており、町内の夏祭りに参加している。地域の小学生が体験学習として利用者の話を聞きにくることがある。近くの共同作業所が開催する公園サロンに利用者が参加して歌や工作を楽しんでいる。今後も利用者が地域のさまざまな場に参加できるように取り組むことが期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ニングルの森平尾の理念として「自然・地域と統合した人間としての幸せな生活」を策定しており、ホーム内に掲示されている。契約書には明示されていないが別紙の資料で利用者や家族には説明している。パンフレットには明記がないので、明記して地域への周知を図ることが期待される。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議において職員は常に理念を議論している。今後は年度ごとに職員の話し合いにより、わかりやすい年度方針を作成し、一層の徹底を図る予定である。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入しており、夏祭りに参加している。地域の小学生が体験学習として利用者の話を聞きにくることがある。近くの共同作業所が開催する公園サロンに利用者が参加して歌や工作を楽しんでいる。今後も利用者が地域のさまざまな場に参加できるように取り組むことが期待される。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に関して会議において話し合い、自己評価は全職員の意見をまとめている。昨年の評価において指摘された点として、深いアセスメントの実施が求められていたので情報収集を積極的におこなっている。理念をホーム内に掲示すること、居室にあった画一的な表札を改善することなどにも取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱は作成されていないものの、利用者家族、町内会、共同作業所職員、保育所職員、宇治市健康生きがい課職員等がメンバーとなり、開催されており、議事録も残されている。今後はメンバーにたいしてグループホームや認知症にたいする理解を求めるとともに、ホームとしては地域のニーズを把握していく予定である。		

京都府:グループホーム ニングルの森平尾

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議が開催されてからは連携ができているが、共催事業等はない。</p>	○	<p>地域において認知症の家族を介護している人や認知症の独居の人を見守っている近隣住民などにたいして、介護相談や介護教室などを市との共催で実施することが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に対しては面会時や電話等で随時報告するとともに、定期的には毎月『近況報告』を郵送している。『近況報告』はケアマネジャーが書いているが、丁寧に、詳細に、その月の状況が記され、利用者のプラス面を見ることによって家族との関係修復を図る内容となっており、秀逸である。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会があり、ふだんの面会も多く、行事には参加も多い。家族が来訪した時には情報交換して家族から意見を聞くようにしている。苦情や意見は記録され、対応は迅速におこなわれている。今後は家族にもホームの運営に協力してもらえそうな体制になることが期待される。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人としてはグループホームの性格上、職員異動をなるべくしない方針である。長く勤務した職員がやむを得ず退職する場合には利用者నికిちんと説明し、その後も折にふれ遊びに来たりしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の研修は計画をたて実施している。認知症、感染症、コミュニケーション、法令遵守、身体拘束、虐待等のテーマが受講されており、レポートが残され、会議において伝達研修されている。職員一人ひとりの個人の課題は自己申告に基づき、施設長や管理者が面接し、達成にむけて支援されている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人のグループホームとは意見交換している。他の法人の近くにあるグループホームと交流したいと考えている。</p>	○	<p>職員がマンネリになったり、視野が狭くなったりすることを防ぎ、やりがいをもって働けるように、種々のグループホームの見学と職員同士のフランクな交流が求められる。その際に可能ならば利用者も一緒に訪問して、交流することが期待される。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショート利用に対応しており、また利用前に空き室に試し利用をされた人や予めデイサービスを利用してから入居を決めた人もいる。また利用者と家族がホームを見学をかねて来訪し、食事もしてゆっくり滞在された例もある。利用開始後なるべく早くなじんでもらう工夫としては職員がマンツーマンで寄り添ったり、生活スタイルを持続させるために家族に1カ月泊まってもらったこともある。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の大先輩として接しており、人間関係をうまくやっていくことや人生観、幸せとはなにかなど、日々いろいろなことを学んでいる。利用者と一緒に笑いあうことも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申込にあたっては生活状況、家族情報、医療情報、介護サービス利用情報を収集し、アセスメントをおこなっている。利用者の性格、趣味、簡単な生活歴等が記録されている。利用者や家族の意向もおおむね収集されている。	○	アセスメントに関しては現在東京センター方式に挑戦しており、さらに詳細な生活歴が収集されることが望まれる。また、毎日の介護の過程で利用者から聞いた情報を記録し、職員が共有化することが求められる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの利用者担当職員制をとっていないが、2人くらいの担当を決めており、ケアマネジャーとともに介護計画の案を作成し、スタッフ会議にかけている。その後利用者や家族の意見を聞き、同意をもらい、決定された介護計画は朝礼等で周知をはかっている。利用者や家族の意向は個別外出などに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しにあたっては、介護計画の項目ごとに毎月チェック表により検討しており、それに基づいて会議において検討し、介護計画の見直しをおこなっている。カンファレンス会議は毎月2人～3人を検討しており、記録も残されている。	○	介護計画の見直しにあたっては、介護計画の評価とともに、新たなアセスメントの実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショート利用に取り組んでいる。かかりつけ医の受診同行やかかりつけ美容院への同行もしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医との関係を尊重し、受診を支援している。協力医療機関としては、内科医と精神科医は2週間に1回の往診、歯科医は訴えのある場合に往診してくれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	『看取りに関する指針』が策定されており、自己決定と尊厳を守ること、主治医や連携医療機関との協力体制があること、見取り介護に携わるものの体制と記録整備、看取り介護実施における職種ごとの役割、死亡時の援助、看取りに関する職員教育等、詳細に提起されており、非常に優れた指針となっている。今後はこの指針にたいして職員の気持ちが一一致協力してターミナルケアが実施されることとともに、研修の実施が期待される。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規定は策定されており、職員の誓約書が残されている。トイレ誘導の声かけ等は注意している。	○	1階の居室は2間続きになっており、その境の戸や廊下との戸が開いているときがあり、注意することが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は7時半から、夕食は6時から、などおおよその日課はあるが、利用者のペースでの生活を支援している。起床の遅い人、9時就寝であるが11時ころまで起きている人等もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いままであまりできていなかったが、今月から利用者に献立の希望を言うことと一緒に食材の買い物に行くことに取り組んでいる。毎日の調理、配膳、下げ膳、食器洗い等を利用者にも参加してもらっている。バーベキュー、お好み焼き、おやつ作り等にも利用者の参加がある。外食も毎月おこなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後におこなわれており、マンツーマンで同性介助をしている。毎日入りたい希望にも応じている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、食器洗い、洗濯物干し、たたみ、居室の掃除、玄関の外掃き、生け花を生ける等、利用者のしたいことで役割が果たされている。毎日の楽しみは歌、編み物、塗り絵、水墨画、書道、そろばん、算数教室、トランプ、かるたとり、将棋等が支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、喫茶店等への日常的な外出は毎日のように実施されている。初詣、桜の花見、アジサイの花見、紅葉狩り、大根炊きの参加等、少し遠出の行事も毎月のようにあり、温泉への日帰り旅行は家族も参加して毎年行っている。利用者の思い出の地への個別外出にも取り組んでおり、連れて行ってもらった利用者は非常に喜んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドア、勝手口は施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、火災感知器、通報器、防火管理者等の設置がおこなわれ、消防計画も立てられている。水や食料、電池等の備蓄も備えられている。避難訓練は利用者参加のもとおこなっている。非常災害時に近隣住民への協力を求めているが、職員の大半が近所に住んでいるので、対応は可能である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの利用者の、毎日のおおよその食事摂取量と水分摂取量が記録に残されており、献立のカロリー値も把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の邸宅を利用しているため、家庭的な空間であり、それをうまく生かして使っている。庭には池や立ち木があり、入り口のプランターに花を植え、表札も落ち着いたものである。玄関の下駄箱の上に花を活け、居間の入り口に墨で書いた理念の額をかけている。広い縁側にはソファが置かれ、洗面所やお風呂もゆったりしている。食堂の椅子やテーブル、食器棚、大きな置時計等も家庭のものと変わらない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の表札は画一的なものではなく、それぞれの飾り等をかけている。室内には鏡台、たんす、整理棚等、利用者が使い慣れた家具や道具がもちこまれている。また花を飾ったり、家族の写真や自分の作品を飾っている人もいる。	○	左記のように、自分流の居場所になっている人は少ないので、他の利用者にもさらに個性的な空間になるように働きかけることが求められる。